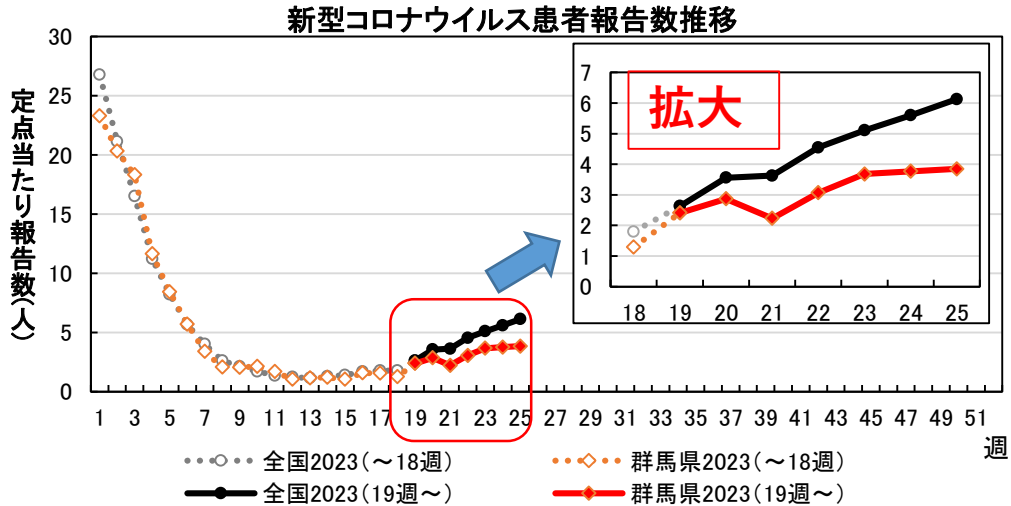


## ● 新型コロナウイルス感染症 (定点報告疾患)

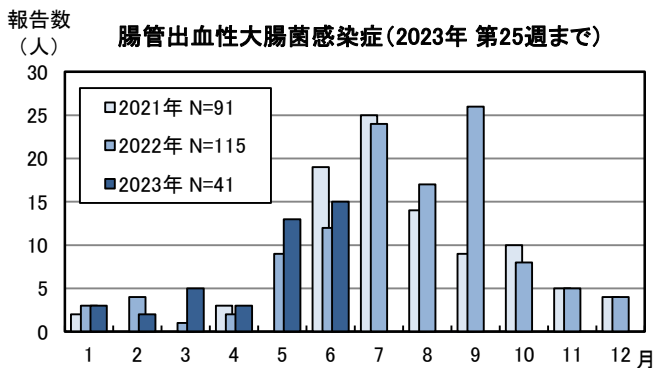
- ◆ 2023年第25週の定点からの報告数は335人 (定点当たり3.85人) でした。  
【第24週：328人 (定点あたり3.77人)】
- ◆ 年齢群別では10歳代が62人 (18.5%) と最も多く、次いで50歳代が49人 (14.6%)、10歳未満が47人 (14.0%) でした。



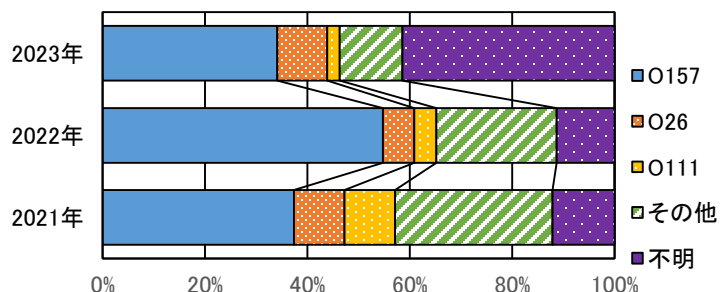
※2023年第1週から第18週までは厚生労働省が発表した定点医療機関合計報告数と定点当たり報告数(令和4年10月3日～令和5年5月7日の週次データ)から作図

## ● 腸管出血性大腸菌感染症 (全数報告疾患)

- ◆ 2023年は5月から報告が増加しており、第25週までに41件の報告がありました。(昨年同時期28件)
- ◆ 年齢別では20歳代の報告が10件で最も多くなっています。
- ◆ 腹痛・下痢・血便等の症状がある患者に対しては、抗菌薬投与の前に便培養検査の実施をお願いします。
- ◆ 大腸菌でベロ毒素検査陽性であれば、血清型によらず届出対象になります。



O血清型別報告割合(2023年第25週まで)



※2023年は届出時の血清型不明の場合、その後の検査で判明する場合があります

## ●新型コロナウイルス SARS-CoV-2 ゲノム解析について(Vol.34)

### 新型コロナウイルスゲノム解析結果(2023年第23週(6月5日～11日)まで)

県内では、オミクロン株が2021年第50週(12月13日～19日)に初めて検出され、2022年第1週(1月3日～9日)以降、BA.1が主な流行となりました。

2022年第2週(1月10日～16日)に渡航歴のある患者からBA.2も検出されましたが、その後の拡大はみられていませんでした。第9週(2月28日～3月6日)以降、BA.2の検出が増加し、主な流行となりました。第25週(6月20日～26日)以降、新たにBA.5が主流となりました。

2023年第15週(4月10日から16日)以降は、XBBが目立って検出されるようになり、主流となっていると考えられます。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となりましたが、引き続き医療機関での検体収集の協力により、ゲノム解析による流行株の把握が重要と思われれます。

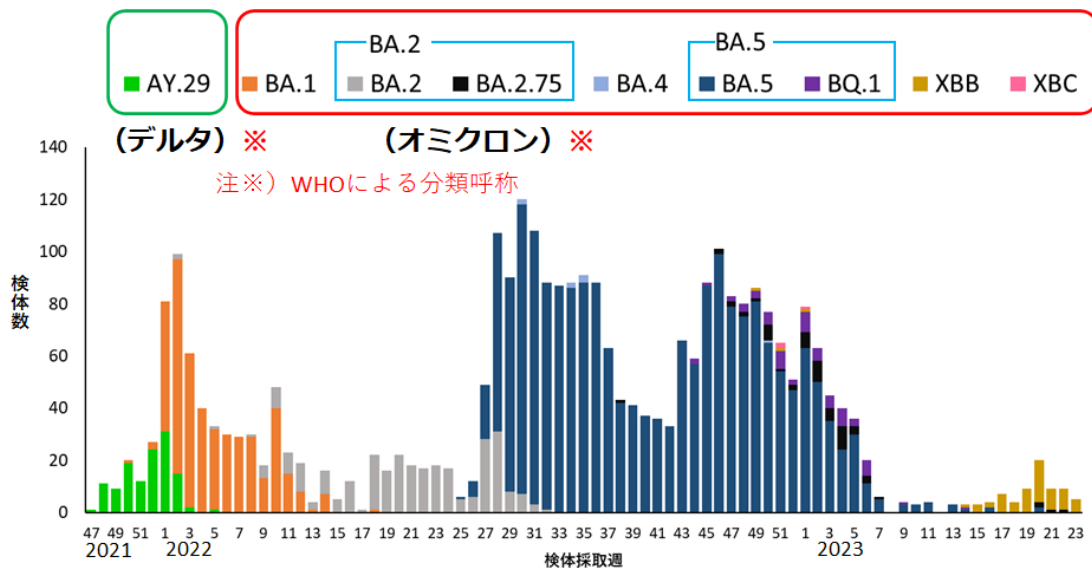


図1 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(検体数)【群馬県衛生環境研究所実施分】

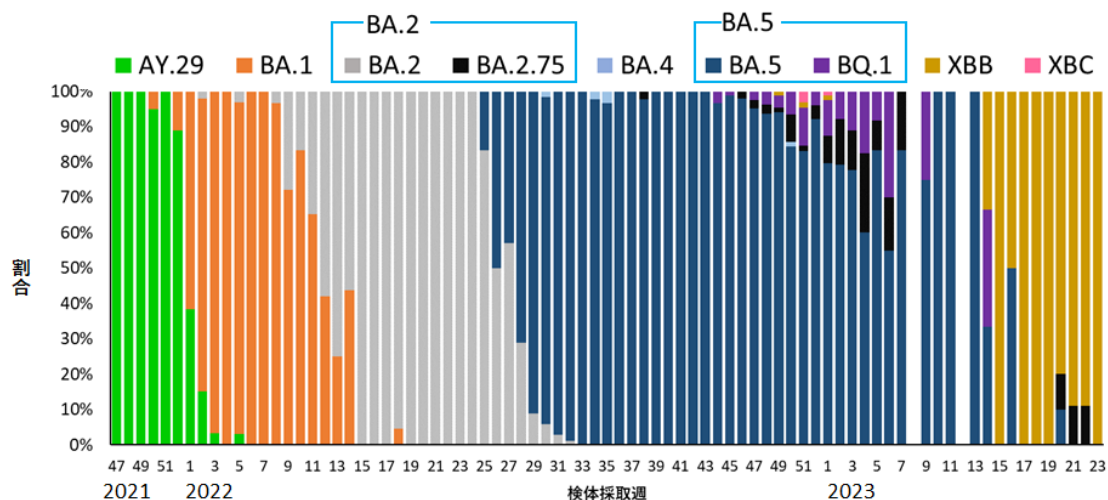


図2 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(割合%)【群馬県衛生環境研究所実施分】